



PbOPSS-23
無作為オンラインパネル

無作為オンラインパネル『PbOPSS-23』へのご登録の御礼 とアンケート結果速報のお知らせ

2023年6月

拝啓 大学では新年度の慌ただしさのまま大型連休も過ぎてしまいましたが、街は花々の美しいさわやかな季節となりました。

さる2月には、わたくしどもの「無作為オンラインパネル PbOPSS-23」への登録のお願いに快く応じていただきまして、誠に有難うございました。おかげさまで、全国の1,100名を超える方々からお返事をいただき、約1,000名の皆様に登録していただくことができました。大変めんどうなお願いを了承してくださいました皆様に心より御礼申し上げます。

今後は、このように3～4ヶ月に一度くらい、PbOPSS-23 通信と題して、皆様にご協力いただいたアンケートの結果の抜粋のご紹介や、年1回くらい予定している次のアンケートについてのお知らせなどをお送りさせていただく予定です。皆様から匿名にてご感想やご意見をお寄せいただければと考えています。

わたくしどもの調査研究は2026年度(2027年3月)まで続く予定です。長期となりますが、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

敬具

皆様の個人情報につきましては、プライバシーマークを取得している専門調査会社のサーベイリサーチセンターのみが登録者名簿を厳重に管理し、わたくしども研究者は皆様のご住所、お名前、メールアドレスは所持しておりません。この通信も、わたくしども研究者が作成したあと調査会社に送付を委託してお届けします。ですので、住所やメールアドレスなどご連絡先の変更は、下記のサーベイリサーチセンターの受付窓口にご連絡下さい。

ご連絡先変更などの受付窓口

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局 <https://www.surece.co.jp/>
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-5 KDX 日本橋313ビル6F 担当:土屋・阿部・西浦・生島
フリーダイヤル 0120-366-354 (平日9時～18時・土日祝祭日を除く)
メールアドレス ochakenkyu@surece.co.jp

研究プロジェクト

研究代表者: 杉野 勇(お茶の水女子大学)
研究分担者: 尾嶋 史章(同志社大学), 歸山 亜紀(群馬県立女子大学),
小林 大祐(金沢大学), 轟 亮(金沢大学), 平沢 和司(北海道大学)

研究プロジェクトのウェブページでは、結果の報告など随時情報を更新しています。
URL:<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/PbOPSS23/>



次のページからは、2-3月に皆様にご協力いただいた「アフターコロナ世界における日本人の政治選択と生活意識アンケート」の中から、いくつかの項目について速報結果をお伝えします。

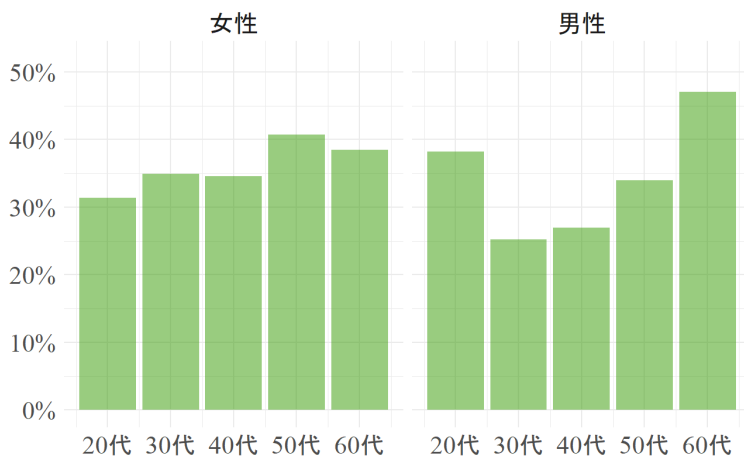
2023年6月1日

調査結果：速報 PbOPSS-23 としての第1回調査、「アフターコロナ世界における日本人の政治選択と生活意識アンケート」は、層化二段無作為抽出という科学的方法でお選びした全国4,800人の方におねがいをし、1,168人の方からご回答いただきました。紙の調査票で回答いただいた方(4月14日時点で158人)につきましては調査後の処理が完了していませんので、ここでは速報としてオンライン回答の方(1,010人)のうち、データのエラーチェックができた988人の方の回答を中心にご紹介いたします。今後、紙調査票の処理が終了してデータに加われば、結果が多少変化する可能性もある点にはご注意ください。

〔内閣支持率は35%あまり〕

今回は政治選択を大きなテーマの一つとしましたので、まずは岸田文雄内閣の支持・不支持をお尋ねした質問について、年齢と性別によってわけた集計結果をご紹介します。

問4 岸田文雄内閣を支持するか
(縦軸は支持する割合)



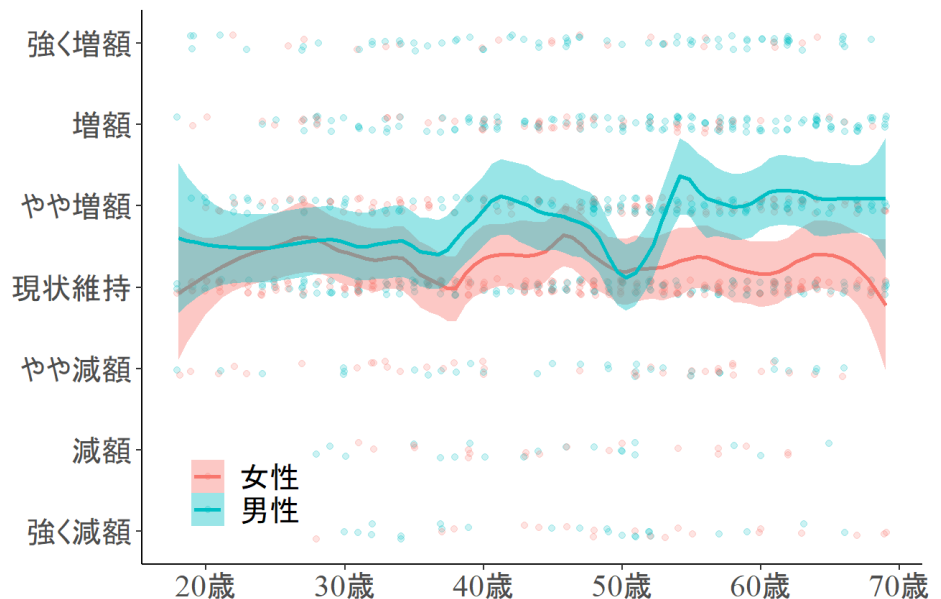
全体では内閣支持率は35.3%となりました。女性では36.3%、男性では34.5%で、全体としては性差があるとはいえない程度です。ですが、左のグラフのように男女それぞれで10歳刻みに分けてみると、若年層(20代)と高齢層(60代)では女性よりも男性での支持率が高く、その間の年齢層では女性の方が支持率が高いという傾向がありそうにも見えます。男性では、女性に比べて相対的に、年齢による違いがやや大きいといえるかもしれません。因みにNHK世論調査では

2月の内閣支持率は36%、3月は41%でした(<https://www.nhk.or.jp/senkyo/shijiritsu/>, 2023年5月14日閲覧)。

〔防衛費の増額〕

もうひとつ政治的な考え方についての質問として、防衛費を増額すべきだと思いか減額すべきだと思いかをお伺いしました(「問8 2022年12月に岸田総理は、2023年度から5年間の防衛費を現在の1.5倍以上にあたる43兆円とすることを指示しました。あなたは、防衛費を増額すべきだと思いますか、それとも減額すべきだと思いますか。」)。

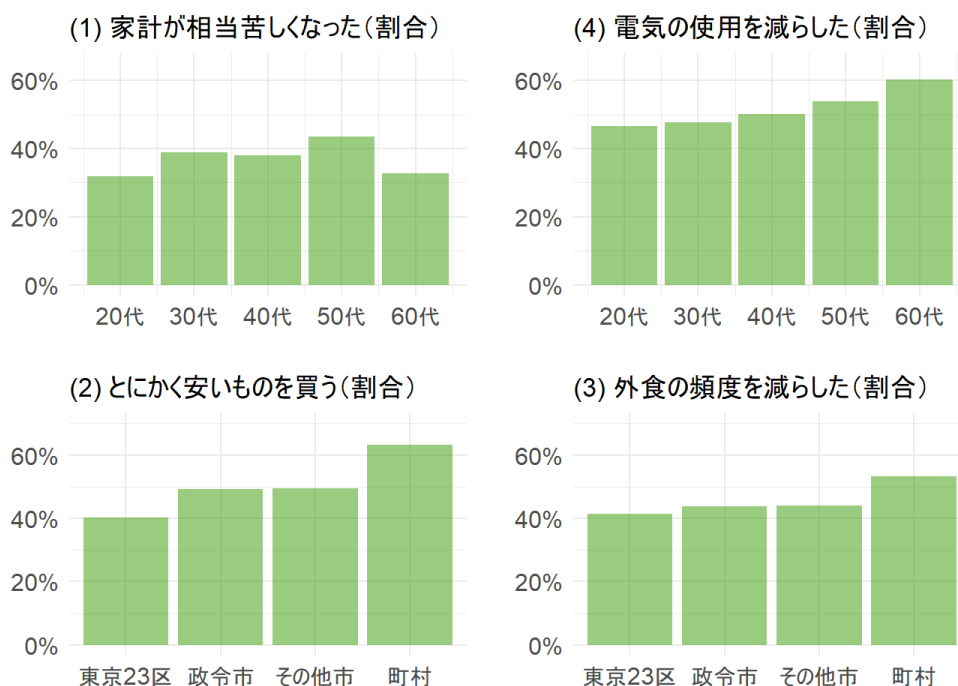
Q08 防衛費は増額すべきか



これも年齢と性別で傾向があるかをグラフにしました。男女とも多くの年齢層で「現状を維持すべきだと思う」と「どちらかといえば増額すべきだと思う」の間くらいにご意見の平均があるといえそうですが、女性はほとんど年齢による違いがないのに対して、男性は50代半ば以降でやや増額すべきであると意見が強まり、男女差が現れるようにも見えます。なお、単純に性別と年齢に分けて平均値を示すと鋭いギザギザの折れ線になりますので、ここでは「平滑化」という統計的処理を行い、変化を滑らかにしています。実線の上下の帯のような範囲は誤差の目安を表しています。

【ウイズコロナ：電気節約は年長層で、外食・買い物節約は町村で】

初回アンケートのもう一つの柱は、ウイズコロナ、アフターコロナの生活についての質問でした。調査の後にはいよいよ新型コロナウイルスも5類感染症というものに移行し、今はもうすっかり巷はアフターコロナの雰囲気になっているようにも感じます。ここで紹介するのはあくまで2月下旬から3月初めでの皆様のご回答です。

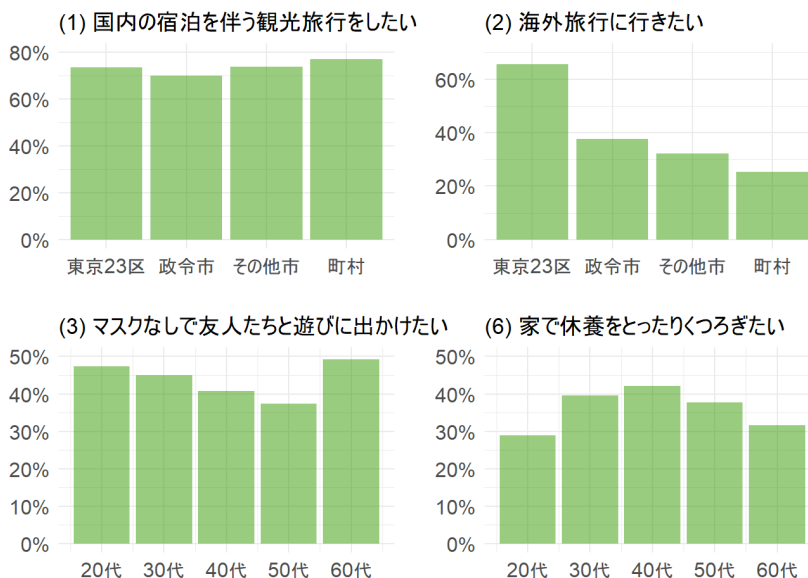


まずは、物価上昇の影響で経験されたことを、「1 半年前(夏頃)に比べて家計が相当苦しくなった(37.7%) / 2 とにかく安いものを買うようになった(49.7%) / 3 外食の頻度を減らした(44.4%) / 4 光熱費を抑えるために電気の使用を減らした(52.3%) / 5 サブスク(月・年ごとに定額で課金されて利用するサービス)の契約を減らした(12.4%) / 6 副業をはじめた(2.7%)」から選んでいただきました。カッコ内の数値は選択された方の割合です。ここでは選択した方の多かった最初の4項目を年齢または居住地に分けてグラフに示しました。

家計が苦しくなったと答えた割合はどの年齢層でも30%超から40%超の間で大きな差はありませんが、30代から50代はやや高く、50代は4割を超えています(年齢による差は男性よりも女性において大きく見られます)。光熱費の節約は年齢が上がるほど割合が高くなり、60代では6割に達しています。60代は実際に家計が苦しくなる前に予防的に節約行動を取るのかも知れません。安いものを買うようになったとか外食の頻度を減らしたという節約行動には住んでいる場所の差が見られました。外食頻度の削減が顕著だったのは東京23区と町村の60代で、ほとんど減らしていないのが東京23区の20代でした。都心の若年層にとっては外食は贅沢を意味するのではなくたんに日常生活の一部で、頻度を減らすことは容易ではないということかもしれません。

【アフターコロナ：休養をとりたい人も、友だちと出かけたい人も】

「あなたは、コロナ後の生活でどのようなものを楽しみたいと思いますか。」(問14)という質問に、「1 国内の観光旅行(宿泊をともなう)をしたい(73.3%) / 2 海外旅行に行きたい(35.7%) / 3 マスクなしで友人たちと遊びに出かけたい(43.3%) / 4 地域や社会に貢献する活動(ボランティア活動など)をしたい(9.7%) / 5 この間にためたお金で大きな買い物をしたい(2.9%) / 6 家で休養をとったり、くつろいだりしたい(36.5%)」から選んでいただきました。ここでも比較的多くの方が選ばれた4項目についてグラフにしました。



国内旅行は4分の3近く、海外旅行も35%以上の方がしたいと答えていますが、後者は都心部にかなり集中しています。マスクなしでの交遊は約43%でしたが、既にしていたのでことさら「したいこと」として回答されなかった方もいるかも知れません。他方で、家で休養したいというお答えも海外旅行と同程度でした。コロナ禍で全ての方が外出自粛していたわけではなく、いわゆるエッセンシャルワーカーの方をはじめ休息をとれる状況でなかった方々も多かったであろうと思われれます。友人と遊びにいききたいと家で休養したいは60代で対照的です。高齢層はコロナ禍では外出や人との交流を強く控えていたでしょうから、家で休養したいという希望が弱く逆に友人と遊びに出かけたいという希望が強いのも頷けます。この傾向は男性よりも女性においてより顕著でした。

【メディア接触の世代差は大きい】

さいごに、年齢差が顕著だった項目を紹介します。「あなたが社会についてのニュースや情報をえるのは、「TVや新聞」からが多いですか、それとも「インターネット上のブログやまとめサイト、SNS」からが多いですか。」(問15)は予想されるように年齢差が大きく、しかも50歳以上で男女差も見られます。主に何から社会の情報を得ているかの違いは、さまざまな態度の違いに繋がる可能性があるため、今後も注視していきたいと思えます。

Q15 社会についてのニュースや情報をえるのは
TV新聞かブログ・SNSか

